

# 町政のひろば

NO.11

川西町 町政のひろば 第11号

昭和49年4月8日発行

発行者・中魚沼郡川西町〔町長・根津正三〕／編集・川西町役場企画室広報係／印刷所・川西町中央町・白南風社



## 昭和49年度予算 各会計の全ぼう

議会で方針を述べる根津町長

昭和四十九年度の予算は、先月十四日、九日間の審議経過を経てそれぞれ原案どおり成立しました。一般会計が九億八千七百万円、国保の事業会計はか五つの特別会計が二億八千五百一十二千円で、一般・特別会計の合計は、十二億七千二百一十二千円という大規模なものとなり、すでに四月一日から執行されています。町全体予算の前年度当初との比較

### 経済の転換期

### まよわず 敢然と対処

### 町長の施政方針

は、十七・八パーセントの伸び率、注目されるところは、総合開発計画の第二次五か年計画の初年度となり、その審議結果をもうらし、計画的行財政が再度スタートしたこと、特別会計のうち、水道会計が一部企業会計として発足をみたことなどです。今回は、町長の施政方針を中心に、成立された予算の全ぼうについての特集としてみました。

経済情勢の激変は、いたずらに住民の生活不安をひきおこし、行財政運営のうえでも大きな障害となつてあらわれています。

国においては、総需要抑制を前面に打ち出し、この変動期の解決策として、一、財源の重点的、効率的な運用、二、生活安定、福祉の充実、三、弾力的、機動的運用の三つを大きな柱として予算が組まれています。

一方、県にあっては、国に歩調をそろえ、危機に対応した県民福祉の充実や、生活関連、社会資本の整備といった、いわゆる福祉立県を強調した予算とされています。

従って、町としてもそうした緊縮財源を頭におきながら、反面山間豪雪地域の後進性脱却をねらいとし、圧縮された中でも最大限効率的な予算を編成しました。総合開発計画の第一次五か年計画は四十八年度をもって終了することになりましたが、当初計画以上の成果を納めることができ、行財政の調和と高効率化という点においては、一応の基盤が完成したものと考えます。

町政の計画的な執行のために、引続いて第二次五か年計画の諮問をしますが、この予算案の各種事業は、審議会の結果に基づいて感じこんだものです。

経済の大きな転換期にあたっては、冷静に、まよわず、屈せず、英断をもって豊かな町づくりに努力しなければならぬと考えています。

# 均整と調和のとれた町政へ

## 七項目を大きな指針

一般会計は、九億八千七百万円で、前年度に比べ一億九千七百万円の増となり、伸び率は二十四・九五パーセントです。

新年度は、第二次構造改善事業費一億円を当初から見積ったため規模がふくれましたが、これを除いた場合は、約十三パーセントの伸びにとどまり、抑制予算をあらわしています。

- 一、明るい、健康と福祉の充実
- 二、教育文化の向上
- 三、産業基盤の確立と農村生活環境の整備
- 四、道路整備と豪雪対策の推進
- 五、中小企業の振興と交通安全対策
- 六、過疎対策と観光の開発
- 七、広域行政の推進と防災態勢の確立

国県の大きな施策をそしゃくしながら、きめ細かな独自の政策により、地域住民の繁栄と福祉の充実を推進したいと考えます。

均整と調和のとれた町政実現のために、次の七項目を大きな指針と



敬老会のひととき

### 指針の要点

#### 老人などに あたたかい手を

人づくり、町づくりのものは健康です。

幼児、乳児、老人、病弱者などは、社会の責任において守るべきであり、国や県の施策とタイアップしながら、きめ細かく見守りたいと思います。

健康管理に重点を置いて、予防検診など検診の徹底をはかるため費用を増額しました。

環境衛生は、十日町市との衛生施設組合の中で、ゴミ焼却炉の建設、ゴミ捨て場への道路整備、火葬場、し尿処理などの充実を考えたいです。

母子センターは、常に利用者が

多く喜ばしいことですが、今後は助産婦の後継者も考えなければなりません。

四月からは、老人、乳児、妊産婦の医療費が無料となり、町費において負担することになりました。

また、老人対策のひとつとして手軽な内職をあっ旋、指導するた

### 町民体育館建設は 積立金を準備

最も大きなウェイトをしめているのが、教育関係予算です。中仙田小、仙田小、赤岩小三校の統合にともなう統合後の屋体建築工事をはじめ、スクールバスの購入、白倉小の百周年記念事業、川西中のグラウンド造成などが中心となっています。

高校の分校が四月から開校されますが、当分は現在の幼稚園舎を利用し、五十一年頃には独立校と

なるよう運動したいと考えています。従って、幼稚園は千手小学校に移転し、園舎の建設は五十年頃を目標にしています。

また、町の体育協会などから要望の強い町民体育館の建設は、積立て金をして準備することになりました。

### 二次構・ほ場整備 備を重点に

第二次構造改善事業の費用を当初に計上したことで、産業関係の予算は、一億七千八百四十八万六千円の多額となりました。

休耕奨励金も四十九年度からは通年施行部分と、転作分のみ支払われることになり、従って他の部分はできるだけ水田復旧が望まれます。

二次構、ほ場整備とも、要求どおりの予算付けがむずかしい面も

### 除雪可能路線を さらに延長

土木費は、一億三千八百七十三万二千円の規模となりました。

町道は、前年に引続き除雪可能道路を延長したいと考え、改良十路線、舗装八路線を計画しています。

が、今後の経済情勢によっては変更部分も考えられます。

現在町道の総延長は、二十四万一千九百メートルですが、新年度に計画している改良三千二百六十五メートルが完成すると、改良率は全体の十六・二パーセント、舗装は、三千七百六十五メートル計



パワーアップの除雪態勢

### 商工会への 補助金をアップ

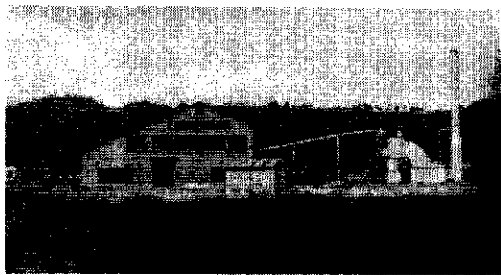
商工会への補助金を前年より増額し、商工業の振興の一助に役立てていただくことにしました。

地方産業育成資金貸付についても、引続いて実施していますので、効果的な利用を期待しています。

交通安全対策は、前年比八十パーセントの増額で安全指導の強化や、施設の充実などをねらいとしています。

死亡事故ゼロの日が続いていますが、六百日、七百日と記録を更新してほしいものと考えています

### 活躍する ライスセンター



あるようですが、今後の政治運動により、予定通りの事業を確保したいと考えます。

新年度も、小規模土地改良費の

画して、約〇・七六パーセントの舗装率となります。

県道は、町内に四本あり総延長は、四万七千八百七十七メートルとなっています。四十九年度の要望がそっくり認められた場合は、改良率が約四十六パーセント、舗装率は七十一パーセントになります。

また、国道二五二号線は、本年秋までに町内分は完成する予定であり、開通式を計画しました。

河川の関係では、沖立の本堤が完成予定であり、小根岸、木落間の本堤へのかさあげも、用地買収が済み近く着工の見込みです。

また、小海川下流については、建設省の直轄工事として実施されることになっています。

災害復旧費は、四千五百四十九万七千円ですが、大半は国庫災害復旧分であり、室島・中屋敷外十件を見込みました。

# 住みよい町づくりを

町は、残る人たちの生活を守ることを第一としなければなりません。山紫水明なこの地を守り、住み良い環境をつくり出すならば、ユーターン現象もあらわれるものと確信しています。

高倉の保養地、松葉平も好評で

もつとも人口が多かったのは、昭和二十五年の、一万七千九百七十九人でしたが、四十五年には、一万九百七十五人で三十九パーセントの減少となっています。社会情勢の要革は、挙家離村を生み出し、過疎化現象を大きくしましたが、行政の力による過疎の完全防止は困難と考えます。

町民の生活を守ることは、残る人たちの生活を守ることを第一としなければなりません。山紫水明なこの地を守り、住み良い環境をつくり出すならば、ユーターン現象もあらわれるものと確信しています。

## 分遣所業務 さらに充実

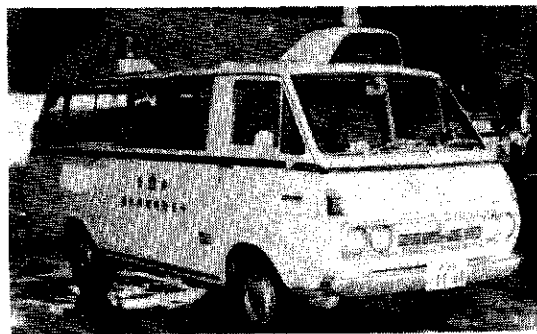
四十八年度で津南町にある総合福祉センターが完成します。また十日町にあると畜場も施設が充実しました。町もそれぞれ負担していただきますのでご利用ください。

消防の関係では、新年度には本署が完成しますし、川西分遣所では、職員二名の増をはかり、救急業務などもさらに充実します。

あり、希望者も多いので、こうしたものをさらに造成したいと思えます。

工場の誘致についても、地元、工場、町が一体となって今後も検討したいことです。

観光面では、既設の園地などの整備、管理を中心に計上し、野口白倉の観光道路の白倉側千メートルの舗装工事を計画しました。



緊急に備えて...

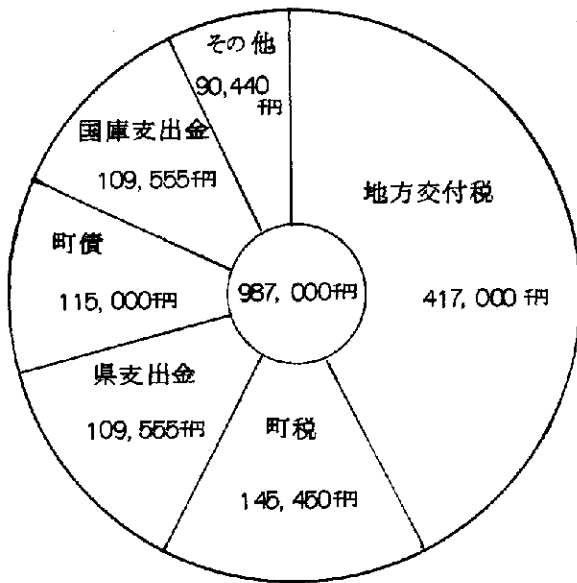
## 歳入 ほぼ半分を交付税に依存

歳入総額九億八千七百万円の内訳は、地方交付税が前年度より二十五・六パーセント増で四億一千七百万円、町税は、十四・七三パーセント増で一億四千五百四十五万円、これは、いずれの税も現行の税率を据置きにより算定した結果です。

国庫の支出金が、二億四千五百六十四万円、これはほとんど特定事業に付随した、ひもつきの金ということになりました。

そのほか町債が一億一千五百万円、などを中心的な財源として編成したものです。

歳入の構成



### 予算の

#### 主な使いみち

〔総務費〕

- 町営住宅修繕二十万、● 仙田開発協議会補助三十万、● カブミラー購入三十三万、道路標識材料八万、街路灯設置十四万など交通対策費二百八万、● 工場誘致部落補助十萬など過疎対策費五十八万、● 総合福祉センター(津南)負担金五十一万六千など広域市町村圏事業費四百三十二万六千、● 分室取りこわし三十二万八千、● センター備品購入三百万、● 県知事選挙費百七万六千、● 参議員選挙費六十万三千、● 町税等納期前納付奨励金二百三十三万、● 納税組合事務交付金百十五万。

〔民生費〕

- 重度身障児扶養手当七万、● 重度身障者医療扶助十萬八千、● 高齢者慰問品代一万、● 老人作品展など賞品代五万、● 老人クラブ運営補助八十六万、● 敬老祝金八十六万、● 褒たきり老人見舞金三十六万など老人福祉費二千七百六十一万。

〔衛生費〕

- へき地看護士育成二十万四千、● 予防接種六十九万、● 循環器及び結核検診四十一万四千、● へき地医薬品代二十万九千、● 子宮ガン検診十八万、● 胃ガン検診五十六万、● へき地冬季巡回診療委託五十万四千など予防費七百五十九万、● 十日町市川西町衛生施設組合負担金一千八百九十

〔農林水産業費〕

- 出稼者帰省バス助成十萬ほか農業委員会費二百二十二万七千、● 水稲共同育苗補助三十万、● たばこ耕作組合補助十五万、● 山菜加工補助十萬、● 大豆生産奨励金二十五万、● 優良畜畜導入補助三十万、● 畜産組合補助五万、● 養豚振興協議会補助五万など畜産費百五十八万、● 基盤整備事業補助一十萬、● 小規模土地改良事業補助三百万、● 休耕田復旧補助二十万、● 桑園改植等補助三十万、● 養蚕近代化事業補助一十萬、● 二次産物生産組織育成補助(第二・三地区)十五万六千、● 近代化施設整備事業補助(鶴吉、高坪、伊友南部、下鳥生産組合、上野機械施設利用組合、千手養豚団地、上野養豚団地組合など)九千八十四万二千など構造改善事業推進費一億百十五万五千、● 林道開設工事(継続)一千二百六十万、● 鋪設組合補助十五万。

〔商工業費〕

- 商工会補助百六十萬、● 育成資金貸付金四百萬、● 二六公園整備二百八十万、● 節黒城跡整備等百二十四万。

〔土木費〕

- 町道改良舗装工事(山手線

四万二千、下水溝整備補助金四十万など環境衛生費二千三百七十七万二千、● 妊婦検診十六万四千、● 乳幼児検診三十九万六千など母子衛生費百五十九万二千、● 誕生証書四万九千など母子センター費四百三十五万二千。

〔消防費〕

- 常設消防二千四百六十四万四千、● 消防施設八百三十万五千、● 庁舎建設六百七十三万七千、● 消防団関係一千六十一万など広域消防費四千九百七十七万。

〔教育費〕

- 校舎整備改修(高校分校)六百万、● 小学校用スクールバス購入三百三十万、● 同統合学校施設整備六十萬、● 白倉小百周年一十萬、● 仙田小屋体建設白倉小プール建設、仙田小グラウンド整地、上野小グラウンド整地等五千七百八十五万。

〔災害復旧費〕

- 農林水産施設災害復旧工事(壺島、高倉、中仙田、赤谷、岩瀬、大白倉、仁田)九百八十二万二千、● 同町費小規模災害復旧工事七十萬、● 公共土木災害復旧工事(藤沢)二千八百六十七万四千、● 同町費小規模災害復旧工事百五十萬等。

## 一般会計予算款別比較

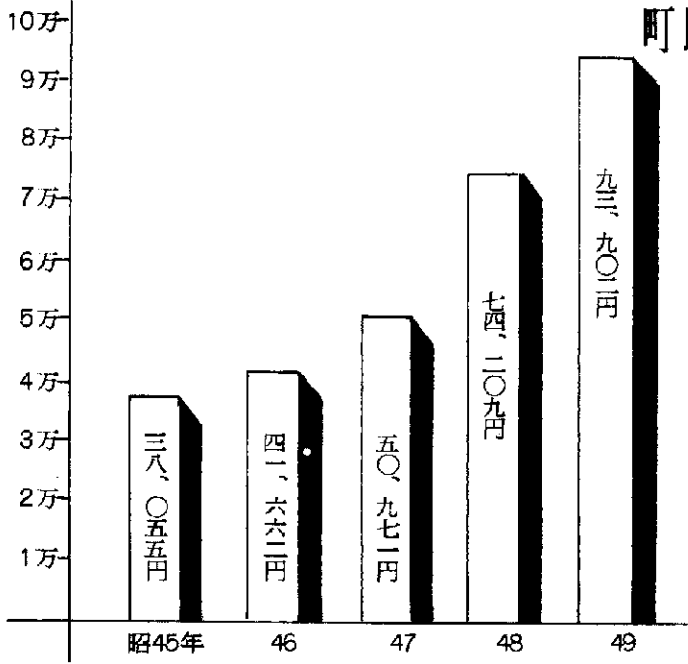
## 歳入

款	本年度予算額 (円)	前年度予算額 (円)	比 較 △:減(円)	構 成 比 (%)	人口1人当り (円)
1. 町 税	145,450	131,042	14,408	14.74	13,838
2. 地方譲与税	6,000	4,700	1,300	0.61	571
3. 自動車取得税交付金	8,000	5,300	2,700	0.81	761
4. 地方交付税	417,000	332,442	84,558	42.25	39,673
5. 交通安全対策特別交付金	365	200	165	0.04	35
6. 分担金及び負担金	16,375	19,850	△3,475	1.66	1,558
7. 使用料及び手数料	3,747	8,595	△4,848	0.38	356
8. 国庫支出金	109,555	109,041	514	11.10	10,423
9. 県支出金	131,009	28,658	102,351	13.27	12,464
10. 財産収入	15,166	13,987	1,179	1.54	1,443
11. 寄附金	1,000	473	527	0.10	95
12. 繰入金	2,000	2,000	0	0.20	190
13. 繰越金	8,000	8,000	0	0.81	761
14. 諸収入	8,333	8,800	△467	0.84	793
15. 町債	115,000	116,800	△1,800	11.65	10,941
歳入合計	987,000	789,888	197,112	100.00	93,902

## 歳出

款	本年度予算額 (円)	前年度予算額 (円)	比 較 △:減(円)	構 成 比 (%)	人口1人当り (円)
1. 議会費	20,265	15,831	4,434	2.06	1,928
2. 総務費	146,793	180,325	△33,532	14.87	13,966
3. 民生費	114,225	89,095	25,130	11.57	10,867
4. 衛生費	53,985	45,500	8,485	5.47	5,136
5. 農林水産業費	178,486	71,999	106,487	18.08	16,981
6. 商工費	14,535	10,652	3,883	1.47	1,383
7. 土木費	138,732	121,163	17,569	14.06	13,199
8. 消防費	49,052	14,338	34,714	4.97	4,667
9. 教育費	166,845	169,787	△2,942	16.91	15,873
10. 災害復旧費	45,497	16,125	29,372	4.61	4,329
11. 公債費	49,585	47,073	2,512	5.03	4,717
12. 予備費	9,000	8,000	1,000	0.91	856
歳出合計	987,000	789,888	197,112	100.00	93,902

### 町民1人当り12万1千円の予算



一般会計の予算を町民一人当りに換算すると別表のようになります。昭和四十五年から四十九年の五年のあいだに、およそ二・四七倍とふくれあがっています。

### 起債のなかみ

起債は、地方債や町債と言われいわば町の借金です。

四十八年度末での町の借金は、三億九千五百万ほどになります。新年度には、さらに一億一千五百万借入れることになっていますので、合計では五億一千万の多額にのぼります。

なお、四十九年度の借金は、事業実施に際して、その財源がみつからないような場合、国や県の金(みなさんが積立ての国民年金、簡易保険のほか、市中央銀行、民間資金などが源泉です)のほりまです。

### 一般会計住民一人当りの推移

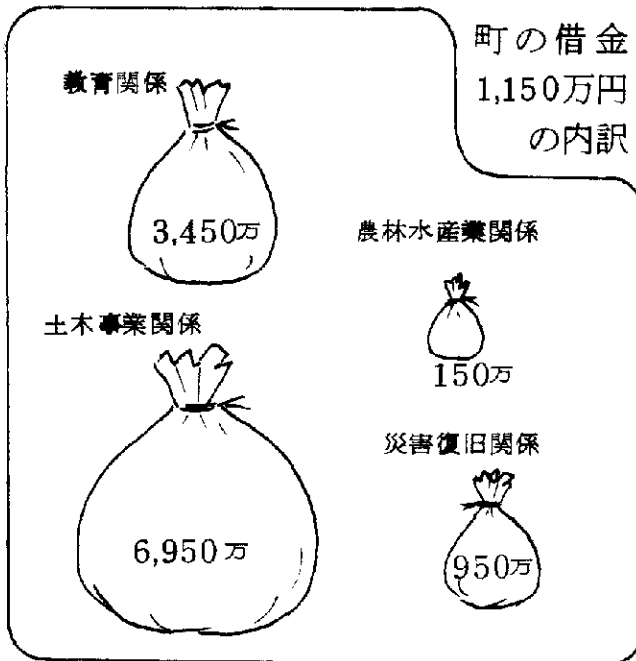
を長期的に借受けるもので、当然元金及び利子の返済がつきまといま

四十九年中に返済予定の元金は、二千三百三十九万七千円、利子は二千六百十八万八千円となっています。従って、むやみに借りられるものではないと見せしめ、町の財政状況により限度が決められ、いろいろな面での制約もあります。

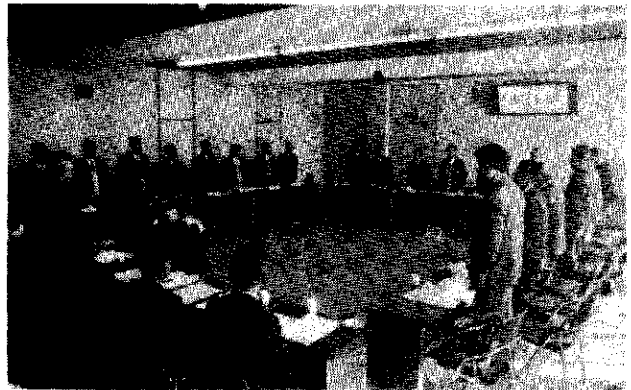
参考までに、現在返済中のものの主なものをあげると、次のようなものがあります。

- 役場庁舎建設債
  - 学校建設及び教育施設整備債
  - 町道整備事業債
  - 除雪機械購入債
  - 災害復旧事業債
  - 老人憩の家建設債
  - 保育所建設債
  - 総合センター建設債
  - 消防施設整備債等
- また、四十九年度新規借入れは別表のようなものに使われます。

### 町の借金 1,150万円の内訳



### ▶ 全員養成、予算議会



## 特別会計

### 国民健康保険(事業勘定) 助産費などを引上げ

一億七千八百九十一万三千円(育児手当一件三千円等)の予算は、国庫支出金一億五千三百二十二万一千円を柱に、繰入金の一億三千三百円のはかは、みなさんからいただく保険料によりまかなうこととなります。

- 医療費の増こうが、予算規模を大きくする原因でもあります。
  - 助産費、葬祭費の引上げ、さらに高額医療費も七月から国保でまかなうことになっており、それらを全部包含したものです。(助産費一件二万円、葬祭費一件一万円、
- | 項目            | 金額(円)  |
|---------------|--------|
| 歳出の款別明細(単位千円) | 一〇、二〇四 |
| ● 総務費         | 一、六〇二  |
| ● 保険給付費       | 六、一六九  |
| ● 保険施設費       | 四〇     |
| ● 公債費         | 二      |
| ● 諸支出金        | 四七〇    |
| ● 積立金         | 一、〇〇〇  |
| ● 予備費         | 一、〇〇〇  |
| 合計            | 一七、八九一 |

### 国保(施設勘定)・仙田へき診 歯科診会計

### いずれも経常費のスライドが主

事業勘定の三千三百三十三万四千円は、前年度より三・二パーセントの増となりました。医療費の改定にともない、診療収入の伸びを期待して増額となったものですが、歳出では、経常経費全体の伸びというかたちになっています。

- 歳出の款別明細(単位千円)
- 総務費 一三〇三〇
- 医療費 一八、九八四
- 公債費 八二〇
- 予備費 五〇〇
- 合計 三三、三三四
- 仙田へき地出張診療所会計は、七百九十三万六千円で、前年比十・二パーセントの増です。
- 内容は、やはり経常経費のスライドによる増となっています。
- 歳出の款別明細(単位千円)
- 総務費 四七六三
- 医療費 二九七三

・公債費 1000  
・予備費 1000  
合計 7936

また、歯科診療所会計は、一千二百九十千円で、二十八・六八パーセントの伸びとなりました。診療用機械器具整備費として、六十二万七千円を見積ったほかは、全体的なアップとなっております。歳出の款別明細(単位千円)  
・総務費 9125  
・医業費 1734  
・公債費 50  
・予備費 1000  
合計 12109

### 農業共済会計

損害防止  
さらに充実

生産調整や、ほ場整備などで対象面積が減少し、運営に苦しい面もありますが、事故が少ないので成績は順調となっております。前年度より二百五十八千円の増で、四千二百七十五千円となりました。

災害が少ないので毎年の積立ても多くなり、とりくずして損害防止機具などの購入にあてています。今後の問題としては、農業の保管庫が必要なのではないかと考えられます。

勘定区分別明細(単位千円)  
・農作物共済勘定 26996  
・畜産共済勘定 337  
・家畜共済勘定 1218  
・業務勘定 14200  
合計 42751

### 水道事業会計

千手・上野を  
上水道に

町の水道普及率は、新年度に上野地区が終了すると約七十パーセントとなります。

新年度からは、千手・上野地区を一本にし、上水道として企業会計を採用し、独立採算制をとることになりました。

上水道会計は、収入が事業収入(一千二十万円)と資本的収入(六千五百万円)に分かれ、支出も事業費用(一千四百六千円)と資本的支出(六千四百六十五千円)に分けられています。

収入、支出の差額については、損益勘定留保資金及び利益剰余金により採算をとるようになっていきます。

すでに布設された部分の維持管理のほか、上野地区の水道工事業を計上した予算です。

一方、簡易水道事業は、九百九十六万九千円で、中仙田及び橋の一部の水道維持管理を行なう予定のものであります。

歳出の款別明細(単位千円)  
・総務費 2595  
・維持管理費 2622  
・公債費 4741  
・予備費 11  
合計 9969

得がたい水資源を  
大切に使いましょう

### 役場機構図

49.4.1

